部局名　　生物資源環境科学府
農業資源経済学専攻
農業資源経済学教育コース

１．新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	本専攻は、次の知識や能力を身に付けた人材の育成を目指す。 【修士課程】 ・食料、農業、農村、環境の専門的な知識を修得すること。 ・農業資源経済学に特徴的な経済分析を通して、理論分析や実証分析の専門的な技能を身につけること。 ・社会科学に関する問題への感受性を育むこと。 ・多様な職業に適用可能な農業資源経済学の考え方を理解し、高度専門職にふさわしい能力を身につけること。 【博士課程】 ・食料、農業、農村、環境の高度に専門的な知識を修得すること。 ・農業資源経済学に特徴的な経済分析を通して、理論分析や実証分析の高度に専門的な技能を身につけること。 ・社会科学に関する問題への感受性を高度に育むこと。 ・多様な職業に適用可能な農業資源経済学の考え方を理解し、高度専門職にふさわしい優れた能力を身につけること。 これら教育目標を達成した者に、修士（農学)、博士（農学）の学位を授与する。
参照基準	下記参照基準を参照して設定した「九州大学**農学部生物資源環境学科生物資源生産科学コース（農政経済学分野）」よりも幅広く、先端的な学修目標を設定している。** 日本学術会議分野別参照基準『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準-農学分野」2015 年。
学修目標	**【修士課程】** A. 主体的な学び・協働 ・高度な知識・技能を活かして自主的かつ積極的に問題に取り組む。 ・農業資源経済のみならず、高度な知識・技能を活かして社会に深い関心を示す。 ・異なる意見を尊重し、高度な知識・技能をふまえて周囲と協調する。 ・異なる意見を理解する高度なコミュニケーション能力を身につける。 B. 知識・理解 ・経済学の法則より、経済現象を理解し、説明できる。

	・農業資源経済学の法則より、食料、農業、農村、環境の多様な経済現象を理解し、説明できる。 ・計量経済学的手法を用いて、経済現象の定量的性質を理解し、説明できる。 ・社会調査論的手法を用いて、経済現象の定性的性質を理解し、説明できる。 ・社会科学における様々な現象を理解し、説明できる。 C 技能 C-1 専門的能力 ・数学を利用して専門的な数理分析を行い、客観的かつ分析的に思考できる。 ・統計調査や実態調査の方法を利用し、社会を正しく認識できる。 ・計量分析や調査分析の結果を評価し、自分の考えを正しく表現できる。 C-2 統合・創造能力 ・問題解決の方法を提示し、実行する高度な能力を身につける。 ・情報を正確に処理し、論理的に思考する高度な能力を身につける。 ・情報通信技術を活用し、自分の意見を発信する高度な能力を身につける。 ・社会を正しく認識し、問題を発見する高度な能力を身につける。 D. 実践 ・専門的な知識・技能をふまえて自分を律する高い倫理観を備える。 ・専門的な知識・技能を活かして社会に積極的に貢献しようという意志をもつ。 ・社会科学の専門的な思考法を使用し、総合的かつ学際的に思考できる。 **【博士後期課程】** A. 主体的な学び・協働 ・高度に専門的な知識・技能を活かして、自主的かつ積極的に問題に取り組む。 ・農業資源経済のみならず、高度に専門的な知識・技能を活かして社会に深い関心を示す。 ・異なる意見を尊重し、高度に専門的な知識・技能をふまえて周囲と協調する。 ・異なる意見を理解する高度に専門的なコミュニケーション能力を身につける。 B. 知識・理解

	・経済学の法則より、経済現象を高度に理解し、説明できる。 ・農業資源経済学の法則より、食料、農業、農村、環境の多様な経済現象を高度に理解し、説明できる。 ・高度な計量経済学的手法を用いて、経済現象の定量的性質を理解し、説明できる。 ・高度な社会調査論的手法を用いて、経済現象の定性的性質を理解し、説明できる。 ・社会科学における様々な現象を高度に理解し、説明できる。 C 技能 C-1 専門的能力 ・数学を利用して高度に専門的な数理分析を行い、客観的かつ分析的に思考できる。 ・高度な統計調査や実態調査の方法を利用し、社会を正しく認識できる。 ・高度な計量分析や調査分析の結果を評価し、自分の考えを正しく表現できる。 ・社会科学の高度に専門的な思考法を利用し、総合的かつ学際的に思考できる。 C-2 統合・創造能力 ・問題解決の方法を提示し、実行する高度に専門的な能力を身につける。 ・情報を正確に処理し、論理的に思考する高度に専門的な能力を身につける。 ・情報通信技術を活用し、自分の意見を発信する高度に専門的な能力を身につける。 ・社会を正しく認識し、問題を発見する高度に専門的な能力を身につける。 D. 実践 ・高度に専門的な知識・技能をふまえて自分を律する高い倫理観を備える。 ・高度に専門的な知識・技能を活かして社会に積極的に貢献しようという意志をもつ。 ・社会科学の高度に専門的な思考法を使用し、総合的かつ学際的に思考できる。

２．新カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成する。

社会科学総合の観点から、国際フードシステムの社会経済問題に関する高度な研究能力と国際性を備えた指導力を修得させるために必要となる授業科目を、国際標準、各研究分野オリジナル及び実践の視点から体系的に編成し、教育コース内の各研究分野の分担・連携と複数指導教員制の下、重層的な教育を行う。

【コースワーク】

修士課程

本教育コースの授業科目は、専門基礎を講義するコア科目と専門性を高度化したアドバンス科目からなり、それらに加えて、実践的応用能力・研究能力を滋養する課題プロジェクト演習科目、演習科目、特別研究科目より構成される。「主体的な学び・協働（A)」に関する高い能力は、コア科目（生物資源環境科学特論、産学官連携・知的財産特論)、課題プロジェクト演習科目（農業資源経済学プロジェクト演習)、演習科目（農業資源経済学演習第一、同第二等)、特別研究科目（農業資源経済学特別研究第一、同第二）を通して培う。

「知識・理解（B)」に関する高い能力は、コア科目（ミクロ経済学特論、政治経済学特論、経営学特論、計量経済学特論、ゲーム理論特論、産学官連携・知的財産特論)、アドバンス科目（食料農業政策学特論、農業経営学特論、食料経済分析学特論、食料流通学特論、環境生命経済学特論、国際農業開発学特論）を通して培う。

「技能（C）」に関する高い能力について、「C-1 専門的能力（適用・分析)」は、アドバンス科目（食料農業政策学特論、農業経営学特論、食料経済分析学特論、食料流通学特論、環境生命経済学特論、国際農業開発学特論）を通して、また「C-2 統合・創造能力（評価・創造）は、演習科目（農業資源経済学演習第一、同第二等)、特別研究科目（農業資源経済学特別研究第一、同第二）を通して、それぞれ培う。

「実践（D)」に関する高い能力は、特別研究科目（農業資源経済学特別研究第一、同第二)、演習科目（農業資源経済学演習第一、同第二等）を通して培う。

博士後期課程

本教育コースの授業科目は専攻科目からなる。その全科目（農業資源経済学特別講究、農業資源経済学特別演習、農業資源経済学特別実習、ティーチング演習、国際演示技法、インターンシップ、プロジェクト演習、国際交流演習、国際交流実践演習）を通して、「主体的な学び・協働（A)」、「知識・理解（B)」、「技能（C)」、「実践（D)」に関する高い能力を培う。

【研究指導体制】

【修士課程】

教育コース内の各研究分野の分担･連携と複数指導教員制の下､重層的な教育を行う。なお､複数指導教員制下では､学生が所属する研究分野以外の教員も副指導教員として指導に当たる。

【博士課程】

教育コース内の各研究分野の分担・連携と複数指導教員制、アドバイザリ委員会制の下、重層的な教育を行う。なお、複数指導教員制下では、学生が所属する研究分野以外の教員も副指導教員として指導に当たる。また、アドバイザリ委員会制下では、他教育コースの教員もアドバイザリ委員として指導に当たる。

【学位論文審査体制】

修士課程

２年次秋学期に修士論文中間発表を､また２年次冬学期に修士論文発表を課したうえで、修士論文評価会議において論文審査を行う。

博士後期課程

３年次夏学期に博士論文中間発表を課したうえで､博士論文調査委員会が公聴会等を通じて論文内容の調査を行い､その調査結果を基に博士論文審査委員会が論文審査を行う。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証)】

【修士課程】

カリキュラムの到達目標の達成度は、修士論文発表会の際に、以下のアセスメント・プランに基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「教育コースカリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。 カリキュラム検討委員会にて検討した結果は、部局の学府教育評価委員会（学務委員会委員で構成）に提出し、査定を受ける。

【博士課程】

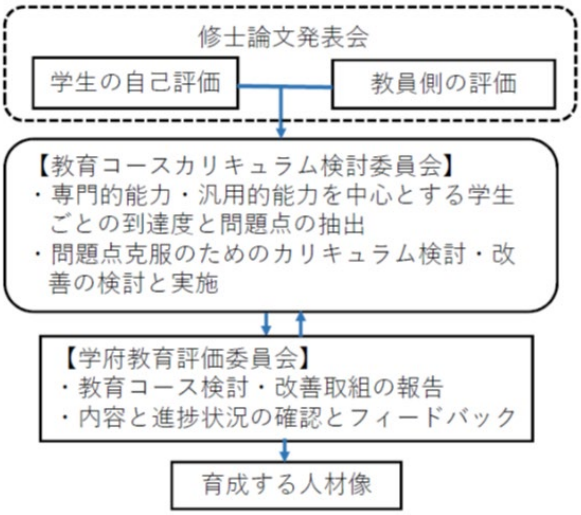
カリキュラムの到達目標の達成度は、博士論文公聴会の際に、以下のアセスメント・プラン方針に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「教育コースカリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。 カリキュラム検討委員会にて

検討した結果は、部局の学府教育評価委員会（学務委員会委員で構成）に提出し、査定を受ける。

【アセスメント・プラン】

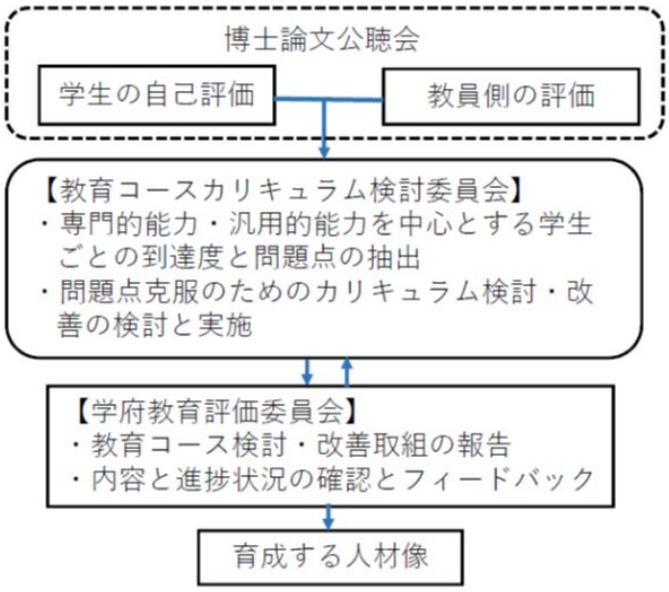
修士課程

修士論文発表会の機会を利用して、教員側からの評価項目（5 項目）と学生の自己分析項目（5 項目）を付き合わせ、「教育コースカリキュラム検討委員会」において、教育コース教員が①学生の到達点を判定し、とりわけディプロマ・ポリシーの「C-1. 専門的能力」および「C-2. 統合・創造能力」を中心とする学生に不足する知識・能力について抽出し、②それらを踏まえて①の問題点を克服するために教育コース教育に必要なカリキュラムの検討・改善を図る。これらの検討結果・改善取組を「学府教育評
価委員会」に報告し、そのフィードバックによってカリキュラム改善を深化させる。



博士後期課程

博士論文公聴会の機会を利用して、教員側からの評価項目（5 項目）と学生の自己分析項目（5 項目）を付き合わせ、「教育コースカリキュラム検討委員会」において、教育コース教員が①学生の到達点を判定し、とりわけディプロマ・ポリシーの「C-1. 専門的能力」および「C-2. 統合・創造能力」を中心とする学生に不足する知識・能力について抽出し、②それらを踏まえて①の問題点を克服するために教育コース教育に必要なカリキュラムの検討・改善を図る。これらの検討結果・改善取組を「学府教育評価委員会」に報告し、そのフィードバックによってカリキュラム改善を深化させる。



３．新アドミッション・ポリシー

求める学生像	**修士課程** 社会科学総合の観点から、国際フードシステムの社会経済問題に関する高度な研究能力と国際性を備えた指導力を持つ人材を体系的・組織的に育成することを教育目標とする。そのために必要となる英語、経済学及び各研究分野の基礎知識を広範に修得し、熱意を持って研究を推進できる能力を有する人物を期待する。 **博士後期課程** 社会科学総合の観点から、国際フードシステムの社会経済問題に関する特に高度な研究能力と国際性を備えた指導力を持つ人材を体系的・組織的に育成することを教育目標とする。そのために必要となる英語及び各研究分野の専門的知識を修得し、熱意を持って研究を推進できる能力を有する人物を期待する。
入学者選抜方法との関係	**修士課程** 本教育コースは、九州大学農学部生物資源生産科学コース農政経済学分野の学士課程教育プログラムを基盤として展開するため、同学士課程の到達水準に達している、または同等の学力を有することを入学要件とする。また、学府として国際化を推進する観点から、完全英語化した必須科目を配置するため、一定水準以上の英語能力を有するこ

	とも入学要件とする。そのため、民間の英語資格・検定試験結果の提出が求められる。 **博士後期課程** 　本教育コースは、九州大学大学院生物資源環境科学府農業資源経済学専攻の修士課程教育プログラムを基盤として展開するため、同修士課程の到達水準に達している、または同等の学力を有することを入学要件とし、加えて民間の英語資格・検定試験結果の提出を求める。
入学者選抜実施方法	**修士課程** 　事前提出された英語資格・検定試験の結果、専門科目に関する筆記試験、口頭試問、成績証明書を総合して選抜を行う。 **博士後期課程** 　事前提出された英語資格・検定試験の結果、修士論文の報告を含む口頭試問、成績証明書を総合して選抜を行う。